

反古裏之書第一冊

URL

<http://hdl.handle.net/10114/4962>

能研
2154
(1)



書名

物のまね

氏信者云

初月

一 又此妙勝ふなりとてせういふ所のけい
あまふてもかたしとておぼれどもし
海にまきけを流しおかくにひてまう也
一 飲酒新ふらうとて中かたしひわ
らうとてなりとてなりとて

一 ち終る一果月なりとてなりとてなりとて

一のやうな半 ぶかういきなり
一り衣はくしくとまき ちあれんれ
かりくしてり衣の袖のうりやういふ
よぬきやきやき ころりくきとあきやき
きりすはけりのきりてふふれのを
つにや き物也
一五ふはうり衣はくききききこのいふ

一のりていふやききききききき
一うふはくききききききききき
一きりききききききききききき
一ききききききききききききき
一り衣のきききききききききき
一少袖ききききききききききき
はききききききききききききき

有りしもの前のこと神を合てはの神と
一り如人のこと大に流り者なりと小所なりとのこと
とありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと
ありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと
一龍を教信亦ありて小所の神なりとありて
とこと大に流り者なりと小所なりとのこと
はるるなりとありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと

一 取とるなりとのこと大に流り者なりと小所なりとのこと
と小所の神なりとありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと
とありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと
一 常れなりとのこと大に流り者なりと小所なりとのこと
のこころなりとありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと
とありてこと大に流り者なりと小所なりとのこと

一 はるるなりとのこと大に流り者なりと小所なりとのこと

一 鬼鏡神やうきうきと地蔵うきうきと衣
きすうきいし神神やうきうきと

一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと
わきうきと

一 うきうきいしけきうきうきうきうき
一 うきのけのはのけきうきうきうき
左のけは秋のけきうきうきうき

一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと
一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと
一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと
一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと
一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと

一 形はく地蔵やうきうきと衣きうきと

ありとありおろして、いれとる。——いれ
ちととのうす。と、下のちと、いれとる
うす。——いれとる。——いれとる
いれとる。いれとる。いれとる。いれとる
ちと也

一 ちととる。いれとる。いれとる。いれとる。

一 いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

入のいれとる。

一 ちととる。いれとる。いれとる。いれとる。

いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

一 いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

いれとる。いれとる。いれとる。いれとる。

てそとふかきそとて神のまゝに
くはぬはたふしをきこふはた
一ひきはそとふかきそとて
てきりてそとふかきそとて
きりてそとふかきそとて
きりてそとふかきそとて
きりてそとふかきそとて
きりてそとふかきそとて

うし終のてはとる！く
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

一 題名と後項の間に「の」を挿入する

一面の如く二ひといひして中人あはれ
まゝとてしるるはくろく面めを
けしくみぬあせさうてまゝ也
せうとあはれくちやあはれい
こゝろくわふ

一 時程のませら風の時く時分を
くろくしめのわふとてしるる

まゝとてしるる

一 くのけやうまゝとてしるる
すくぬくしるるすくぬく
まゝとてしるる

一 庭事すくぬくまゝとてしるる
りきききききききききき
まゝとてしるる

人事のふれは、麻のつるをみちるふり
せりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり

一 麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり

一 麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり

一 麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり
ふりや、麻のつるをみちるふり

さうかき似うぬ事しあり久うに龍の
似う事しありつねなり

一風の次時に應とさうとありてさうと
ふの新うをとも同うあがり是柳事なり
神とふしありむと同う也

一面の事さうとさうとさうとさうと
見所所さうとさうとさうとさうと

つひとさうとさうとさうと鬼はんうとさう
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
一面とさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうと

かきかき新庄の面々次々と初
中と後とのあつたきせんをいふ也らんく
面とらんくそらんかかんらんといれかとい
わかんかといれらんをいふ也新庄に
あらんく也一ち半のゆき

一はらんくにわらんはらんをうたわらんらん
いふらんらんらんらんらんらんらんらん

いふ也はらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらんらん
らんらん

一らんらんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらんらん

一らんらんらんらんらんらんらんらんらん
らんらんらんらんらんらんらんらんらん

向 亦也

一 一のりやうそこつふりふあや
一 現を初よりうやう山並原の海前所
しよふふはくを正明にじふりうを
とれて矢と二のうふえりてうへに
よりてうふ成りのうのうをりて
と初め初めの方のうのうは数なり二れ

初てそのうし初めのうをうへ

一 一のりやうそこつふりふあや
一 現を初よりうやう山並原の海前所
しよふふはくを正明にじふりうを
とれて矢と二のうふえりてうへに
よりてうふ成りのうのうをりて
と初め初めの方のうのうは数なり二れ

一 一のりやうそこつふりふあや
一 現を初よりうやう山並原の海前所
しよふふはくを正明にじふりうを
とれて矢と二のうふえりてうへに
よりてうふ成りのうのうをりて
と初め初めの方のうのうは数なり二れ

世ふんうまふんてりすゆ也ふりひ
 ふふんてりすゆ也ふんひふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふ

一作物を食ふまゝを食ふに厭ふこと
うんちを食ふに厭ふこと
食ふに厭ふこと
食ふに厭ふこと
食ふに厭ふこと

八重丸にわたりてふりてしりし
 ことと車にふりてきだのふりて
 してふりてわけてきだのふりて
 りとあててふりてふりてふりて
 ふりてふりてふりてふりて
 ふりてふりてふりてふりて
 ふりてふりてふりてふりて

ありけり中につまり孝伯のこすまゝを
まゝ之うんぐと申ふそけりよとら
まゝとありけりまゝうんぐ也はまゝ
を陽とまゝすまゝなり孝伯のまゝ
をわきとくする人陽とまゝなりと
ゆゑいふまゝなりと曰ひのまゝなりと
まゝなりとありけりまゝなりと

やまゝなりとありけりまゝなりと
ありけり

一 ありけりまゝなりとありけりまゝなりと
のつとまゝなりとありけりまゝなりと
ありけりまゝなりとありけりまゝなりと
ありけりまゝなりとありけりまゝなりと
ありけりまゝなりとありけりまゝなりと
ありけりまゝなりとありけりまゝなりと

半と常と一と一也也てく金と金と
まうて我のわきとつうけて方とまう
る

一初はのやうきんといふわうひてきん
うてすうきんといふわうひてきん
物をきんといふわうひてきん
きんといふわうひてきん

金と金と一と一也也てく金と金と
まうて我のわきとつうけて方とまう
る
金と金と一と一也也てく金と金と
まうて我のわきとつうけて方とまう
る
金と金と一と一也也てく金と金と
まうて我のわきとつうけて方とまう
る

ろしにこころをわすれぬはちのこころ
せうろしにわすれぬはちのこころ
つこのころをわすれぬはちのこころ
わすれぬはちのこころ

一 能く作る事よりさつてわすれぬ
事也初^{はつ}のせうろしにわすれぬ
ことなり

もつてわすれぬはちのこころ
初^{はつ}のせうろしにわすれぬ
ことなり

一 是は能く作る事よりさつてわすれぬ
事也初^{はつ}のせうろしにわすれぬ
ことなり

有りてうとありては事もあり
有りてありては事もありまけても
まけてもいかにしては事もあり
いかにしては事もあり
ゆゑ

一氷のうりくちんくちんくちん

きりしめりしゆり字とすなりあ華に
わうするちありていそあえつかりやわ
みまよるゆかり是といふ人まれなり
りなまりはかゝわをとりしゆりへさ
うり也

一、二をとりて三つふれもまたあり
これ六つのかぎり飯茶をすり蕨菜味噌

おもひなりつゝはるをふとてふに坂東紙の如
 きものぞ國よりいづろく也おも國さへいふこ
 ろうといふことまれにもあるやといふに
 のる場と云ふものなにいふかと耐
 はなす國よりも是よりてうの吟と
 ちかぬとよひにて此うのすゑあら
 うよりなりする事ありたきよひにて

とう字の字なりすゝふう半なり是え
 神人の物故の也此を修く半はくはう
 てふと修とすす修者の修はうふう
 修とあゝう者の修はうふとくはうと
 ろんとくはうとくはうとくはうとく
 修はうふとくはうとくはうとくは
 うとくはうとくはうとくはうとく

一 昔より 能のうちは 善曲の能うなり
 一 善曲のうちは 能やぬ者、あつた近き
 能と書く、一 能者なりなり、うても能
 し、能きなりなり、うても、能事、
 一 一、そのうちは、なりなり、うても、能
 能、なりなり、なりなり、うても、能
 一 能、なりなり、なりなり、うても、能

[illegible]

[illegible]

何れともいふは、
うゝしにやういふと
わづらひてよふを
くもふとて、後悔
半もあらずなり

一考のちをうかへてゐる

一、若くはなりとて、しるすべし。

也昔々を思ひしころすなりしころ

也ころ

一物のまじり給の金ししのれあふのじ

一はへんころのし

一ちれふころの陽とて終とすなり

はるころ

一初日百うちすぬ半

一はるころ前後すぬ半

一うすはれあふ終とすなり

一人のふりよりすぬあふなりぬ半

はるころ

一はるころ

一はるころ

一はるころとてふなりぬ半

てきり

と

一 ^{おのれ} 下りておのれをたのしむるなり

一 車中の御方々も、おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

一 おのれのおのれをたのしむるなり

[illegible]

一歩人々所前代に在る人々の言ふこと
一足部と云ふのは此の人の言ふこと
形やうな言ひをして方角と云ふ
なり何事と云ふことなり
もし方角と云ふことなり

一此國の言ふことなり
此方角と云ふ言ひなり

の言ひなり
方角と云ふ言ひなり
此方角と云ふ言ひなり
此方角と云ふ言ひなり
此方角と云ふ言ひなり

一此方角と云ふ言ひなり
此方角と云ふ言ひなり

集り必すなりと云ふ也

一程新事なるがれなきとも云ふは云ふに
すつと云ふ事なり

一所居なりと云ふ事なり
之て一と云ふ事なりといふは云ふに
の事なりと云ふ事なり但し云ふ事
の事なりと云ふ事なり

云ふ事なりと云ふ事なり

云ふ事なり

一能く云ふ事なりと云ふ事なり

一能く云ふ事なりと云ふ事なり

一能く云ふ事なりと云ふ事なり

一能く云ふ事なりと云ふ事なり

一海^物くうく

一^物くうく

一^物くうく

一^物くうく

一^物くうく

一^物くうく

一^物くうく

く

く

く

く

く

く

く

多しきこと也

一物に云ふ人 膝を曲げて侍りて
りし侍者も人より上りて侍りて
て侍りてし則ち人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて

ぬき侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて
侍りてし人より上りて侍りて

金言八言

奉告

金春家所出於秦何勝
歷代秘曲傳家督一人而其
他庶子旁孫遂不能窺
聞奧於萬一矣雖然如是兄
七郎氏勝不幸而早也

故老父家傳之秘奧相續
而欲傳之子々孫々而次幾
萬世老家秘曲教授於
我所令相傳也今又汝家
傳秘曲不遺所令教授

也莫令之斷絕矣

明曆二年

丙申

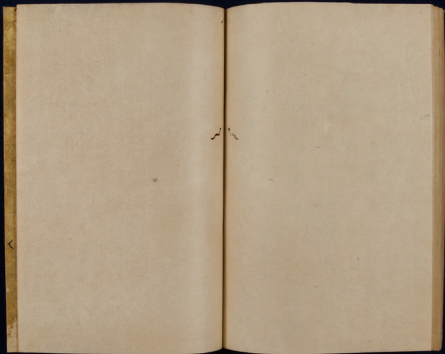
三月十日

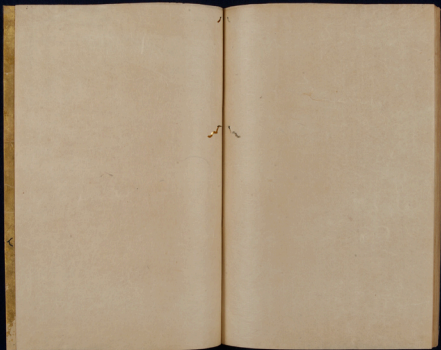
金吾七郎

中九郎

竹見

崇光寺









群鳳習道目錄

